

黍生っていう山知ってますか

日本を元気にするために、「一億二千万人総登山者化計画」がひらめいて、具体的な活動方法として、「みんなで登ろう、ふるさと八百名山」を考えた。目立つ山がたくさんある県も、地味な山ばかりの県も、差別なく一県17山ずつ選ぶことに決めた。北海道だけは18山として帳尻を合わせた。

11月1日、ぼくがアドバイザーをお引き受けしているゴールドウインのオリジナルブランド、ラテラで、クラブツーリズム名古屋と共催の登山教室が企画された。教室は長野県飯田にある風越山である。名古屋駅前に7時40分、集合出発との案内を頂く。前の晩、名古屋に泊まっておかねばならない。

ならば、朝東京を発って行きがけの駄賃に一山稼ぐことを思い立った。どこの山に登ろうか。名古屋周辺の山好きは、鈴鹿の山に出かけて行くことが多いと聞く。ぼくも藤原岳、霊仙山、御在所岳には登っている。しかし、今回は「ふるさと八百名山」のこともあるので、愛知県の山にこだわることにした。「分県登山ガイド愛知県の山」(山と溪谷社刊)をひろげる。

新日本百名山を愛知県から一山選ぶのに悩んだことを思い出した。新百としては鳳来寺山を選んだのだが、それは正解だったと思っている。さて、「ふるさと八百名山」、17山選ばねばならないのだが、そんなぼくの目に「黍生」という山名が飛び込んできた。イケル、直感的にそう思って前日の10月31日に登る山は黍生に決めた。

山は決まったが、アプローチがよく分からない。愛知県在住の会員、Mさんにご相談すると、ガイドブックのコピーを送って下さり、アプローチの方法も知らせて下さった。しかし、土地勘がないので、黍生はまだガスの中だった。

10月23日～26日、アルパインツアーが企画実施してくれている「地球を遠足」で、韓国の雪岳山と北漢山を登ってきた。この時、参加者の中に豊田市の方がいらっしやっただので、「アシスケの黍生に登りたいんですが、どう行ったらいいんですか」とお尋ねしたら、「あー、アスケのね、私、黍生の登山口にいますからご案内しましょう」と話はあっけなく決まったのであった。本当になんて運のいいことか。

31日は東京発7時の新幹線で名古屋へ行き、電車で豊田まで行き、タクシーで足助に入る。登山口にお住まいになっている深津長さんは、お仲間と待っていてくれて、黍生にご案内下さり、頂上では昼食まで用意して頂いて、ただただ恐縮の一日であった。

黍生は手許にあるコンサイス山名辞典には載っていないくらいの山であるが、ぬくもりのある山で、ふるさと八百名山にふさわしい山であった。翌1日、クラブツーリズムのバスツアーで登った風越山もいい山で、こちらは長野県から選ぶ17山のうちの1山とした。無風快晴、ぼくの大好きな南アルプスが目の前に連なっていた。